

全自交労連・KPU合同 2019夏季労働セミナー



2019年7月1日(月)伊東市のホテル聚楽において、「2019夏季労働セミナー」が開催されました。主催者を代表し、全自交労連の伊藤中央執行委員長の挨拶では、「今回のセミナーは全自交、KPUとの統合協議の中で実現した。協力して実りあるセミナーにしたい。ハイタク業界一番の課題となっているライドシェア合法化問題については先月の国家戦略会議の諮問で、オリンピック前にライドシェアを実現するように」と意見書を出している。国交省が安心、利用者保護の観点から対応不可と言っているにも関わらず、一向に諦めていない状況にある。東京ではクルーの問題もある。国交省が出した通達を逆手にとって謝礼は任意と言いつつも白タク行為を行っており、国交省には通達の見直しを強く訴えていきたい。雇用によらない働き方、これは労働界全体の問題として多産別にも働きかけて対応していかなければならないが、一番の近道は非正規雇用緩和を成長戦略としている今の政治を変える事だ。参議院選挙が目前に迫っている。もりやたかし候補はKPUも推薦しており、何としてでも国会に送り出さなければならぬ。その為に皆で決意を固めあつていかなければならない」と述べました。

KPUの釘本健二中央執行委員長の挨拶では、「今回のセミナー開催に大変ご尽力いただいたことに感謝を申し上げます。2年前の7月に伊藤委員長と将来の統合を目指すとの共同宣言をだすことができた。双方が同じ方向に向かっていくのだから、一緒にやろうという宣言だった。世界の状況を見て、組織の無いところ、弱いところ、そうしたところも、弱いの、発言力がない人がどんどん置き去りにされている状況を見ると、ハイタク業界も安心してはいられない。皆さんと一緒に統合に向けた議論を進

めながら、近い将来一緒になることを祈念している」と述べました。

講演1 今問われている！労働組合の存在意義と役割 〜労働組合の再生・発展を目指して〜



東京共同法律事務所 宮里邦雄弁護士は、JR東労組の組合員3万人が脱退した問題を取り上げ、その背景には何があったか、その意味するものはなにかをテーマに講演を行いました。「過去は運動方針の違いによる脱退だったが、最近では「組合費が高い」「存在意義がない」などの理由で脱退する組合員が増えてきている。連合が結成してから30周年となるが800万人いた組合員が600万人となつている。歯止めがかからないのは、非正規雇用の増加・労務管理の個別化・仲間の連帯意識が弱まっていると同時に、労働者代表としての役割、発言力、影響力の減退、社会的利益の後退がある」と指摘しました。今後の課題として、賃金労働条件の基準の引き上げ、職場環境の確保、組合員に対する解雇やハラスメントの是正、労務管理のチェックの役割を果たし、組合加入の存在感や加入の意義を高めることが重要と述べました。

講演2 「タクシーを中心とした 地方公共交通の現状と課題」



桜美林大学 戸崎肇教授は最近多発している高齢者の事故に触れ「免許を返納しなければいけない」と言うのが地方の高齢者がおかれている環境は運

転者不足で病院や買い物への移動手段がない熱が冷めちゃう前にこの問題は取り組んでいかなければならない。自動運転ではなく、負担を軽減できるシステムを作ることも必要。ライドプッキングなど、海外から来るものは受け入れるという流れになっていて、反対運動をするにもイメージで負けてしまっている。ライドプッキングの危険性を周知させるには、業界用語を使わず、わかりやすい言葉で周りにしっかりと理解させることが大切」と講義しました。また「日本は外交力が弱い。これでは一気に外資に入られてしまう。来年のオリンピックに向けて取り組まないとライドプッキングにやられてしまう」とし、タクシー業界が定期的に政策の見直しを行い、一丸となって取り組みを強化すること。労働組合としては横の連帯・情報発信の強化をするよう要請しました。

講演3 「タクシーを運ぶ最近の情勢について」



国土交通省自動車旅客課 金指和彦課長の講演では、リーマンショック後のタクシー事業の現状として輸送人員の減少・運送収入の減少・延々実働車両数の減少について触れ、平成26年に施行されたタクシー特措法から日車営収が平成13年度の値まで回復したと報告しました。全国ハイヤー・タクシー連合会において平成28年6月からタクシーサービスの更なる高度化について検討を行い、10月に「取り組む事項(11項目)」を決定し、国土交通省としても、タクシーの利便性・生産性の向上の観点から、実証実験の実施を通じたルールの整備など支援を行っているとして、「相乗りタクシー」や「事前確定運賃」の実証実験では7割の利用者が「また利用したい」と回答したと報告しました。そこから2年が経過し、一定の進捗を見たことから、新たに追加する9項目を決定し、更なる取り組みを進めていく方針だとして国交省もその実現に向けて後押しをして行く意向を示しました。

(裏面に続く)



全自交・KPU両組織で約250人の組合員が参集し、統合に向けた一般組合員も参加した初の取り組みとあって、全体的に熱気を感じさせる集会となりました。

『白タク問題』についても、在京中国大使館のホームページにおいて、訪日中国人向けの白タクに関する注意喚起を記載したり、警視庁、法務省、観光庁等と連携し各地域において白タク行為の対策を実施していると報告されました。質疑では、北海道地連から「事前確定運賃について、夏と冬に同じ距離を走るが、積雪の時には2割増しになるなど、各地域によって状況は異なる。それぞれの事情を踏まえて検討するべき」という意見や、KPU帝都からは「事業者の設備投資について、中小には重荷になっているので補助金を出すべき」という意見が出ました。また、東洋交通からは災害時のラジオについての見解を求め、スタッフドレスタイヤの4輪についても国交省からの義務化を求めました。



「193回の国会が閉会となり、都合の悪い事には蓋をしている安倍政権が明るみになった。今度の参議院選挙はそんな国民に目を向けていない安倍政権を終わらせるための大事な選挙になる。限られた人達だけが得をし、日本だけ賃金が上がらない。立憲民主党は安心して暮らせる社会保障を目指し、生活インフラを守るため、保育・介護・公共交通産業を守っていく。産業の格差をなくすためにもライドシェア・白タク合法化問題にも積極的に取り組んでいきたい。このまま政権が継続されれば、憲法改正も行うと明言しており、危機的な状況になる。平和に対しても声を上げていく。国会ではフィリタールをあげず本音をぶつけていきたい」とし、7月21日の投票日まで全力で闘い抜くことを宣言しました。



参議院選挙 もりやたかし候補
セミナーにて決意表明

セミナーには全自交 労連・KPUが推薦する立憲民主党のもりやたかし候補が挨拶に訪れ、7月21日に行われる参議院選挙についての決意を述べました。

「ライドシェア・白タク合法化反対！」
「安倍暴走政治ストップ！」
に向けて団結ガンパロー！！



全自交・KPU両組織の統合に向けた仲人役となっている連合東京の岡田啓会長は「色々あったことは承知しているが、もう一緒にやっけてはどうかという思いがある。嫌な思いの平成の時代は去った。令和の新時代に別々に運動している場合ではない。両組織の力を結集して前進させ、元の仲間になることを祈念する」と、統合に向けた期待感を述べました。

《今後の日程》

8月 1日(木)～ 3日(土)
19日(月)～21日(水)
9月 6日(金)・ 7日(土)
10月20日(日)
11月10日(日)・11日(月)

選挙管理委員会立候補受付期間
第45・46期役員立候補受付期間
第3回 明番集会(201号川側)
第46回 定期大会
秋の組合旅行